

独立混成隊五十六旅団砲兵隊部隊略歴 (頁一五八九七)

年月日

概

要

昭和六、六

七、三

自 七、一六
至 九、三

九、七

二、一五

二、二七

六、一〇

自 六、七
至 八、三

自 六、一三
至 八、一三

久留米西部五十一部隊にて仮編成

門司港出帆

比島マニラに於て編成業務

北ボルネオレーサンダカンに着 編成業務

編成完結

北ボルネオ東海州タワオ附近の防衛並警備

北ボルネオ横断転進開始

連合軍 ブルネイ上陸

ブルネイ附近の警備戦斗並参加人員大隊長木下少佐以下十四名、ブルネイ附近

の戦斗は六月十三日頃より激烈を極め負傷者は予定の如く転進を開始

砲兵隊はブルネイよりリンバンレに至り同地に於て警備に任じ、尔後兵団と

行動を共にす

生死不明 七名 戦病死 二名

中隊長 角大尉以下四名

ボルネオ二の

八二四
二二四
四二四
四二五

同戦斗に於て主力撤退掩護のためホートホート右翼陣地を死守し戦死六名
六二哩附近に陣地構築中集中砲火を浴び舟原伍長以下三名戦死

テノム反ゼツセルトンに於て終戦復員業務

ゼツセルトン登(葛城)

大行著

復員完了

歴代部隊長名

陸軍少佐 木下重喜
長野県東筑摩郡木郷村坂向千代ノ湯

独立混成第六十六旅団工兵隊部隊略歴（頁一五八～一六八）

年月日	概	要
昭二九、九、一	北「ボルネオ」サンダカンに於て解放完結	
九、二八	「タワオ」に転進し、同地に於て警備	
三〇、四、一	「ブルネイ」転進の途「タワオ」出発	
六、一四	「ボート」に到着	
同地警備		
至白 六、二四 八、一四	「ボート」附近の戦斗に参加	
	先発隊の一部「ブルネイ」に到着	
	同地附近の警備並戦斗に参加	
	後発隊は「タワオ」に残留し、同地の警備	
	終戦	
二、三、一八	下士官兵七、北ボルネオ「ゼツセル」に出発復員す（月日不詳）	
三、二四	現地入隊兵四名、家族同伴者として、全地出發復員（月日不詳）	
四、二二	主力は同地で「葛城」乗艦	
一、四	全地出發 料枝三、下士官九〇 計九三	
二、四	大竹到着	

復員す

其の他、北ボルネオコセツセルトンシ地区陸軍病院に入院中の兵三、スミレ丸にて復員

残置者、柳笛者として兵一、ラブアン島にて残置

茲に全生存者一〇七名中、柳笛者一名を救し、一〇六名復員修了

歴代部隊長名

陸軍大尉 橋本 紀 林

福岡県福岡市浅田町六〇四

独立混成隊五十六旅団通信隊部隊略歴（貫一五八九九）

年月日	概	要
昭一九、六、一八	北「ボルネオ」守備軍独立混成隊五十六旅団通信隊要員として	
六、九	西部十六連隊に仮編成（大久保中尉以下一七八名）	
七、二	屯営出發	
七、三	門司港出帆	
七、九	「マニラ」上陸	
九、三	「マニラ」出帆（宇津安軍曹以下七名兵器受領のため「マニラ」残留其の後マニラ兵器隊に転属の筈）	
九、一〇	北「ボルネオ」コアピレ港寄港	
九、二一	屋子中尉以下十一名先發隊として「サンダカン」に向け先發	
九、二四	先發隊「サンダカン」上陸	
九、二五	本隊「アピレ」港出帆	
九、二七	本隊「サンダカン」上陸	
九、三一	独立混成隊五十六旅団通信隊編成完結 （大久保中尉以下一七八名）	
九、三二	屋子中尉以下十名先發隊として「タワオレ」に向け出發	
九、三五	本隊「サンダカン」出發「クワオレ」に向け	

昭一九、六、一八

九二八	本隊「タワオ」港上陸 永後同地附近警備
九二九	望子中尉以下十名先発隊「タワオ」到着（途中「シンボルナ」沖にて坐礁の爲延着）
一一〇	無電班時永伍長以下九名通信連絡のため「タラカン」に向け出発
一一五	部隊の一部編成替へ転出二十一名 転入二十一名
一二九	遊作命甲「オ」二十三号により「ボルネオ」横断転進のため時永伍長以下九名「タラカン」出発「センバコン」河廻航（「オ」二号兵站線）「メンサロン」にて通信連絡
一三三	「ボルネオ」横断転進「オ」一次梯隊員として二川伍長以下七名（「オ」二号兵站線）により「タワオ」出発
一三五	「オ」二次転進隊員として小林軍曹以下六名先発（二号線にて）
一三一	「オ」三次転進隊員姫野火尉以下十一名先発（二号線にて）
一四一	「オ」四次転進隊員桑野曹長以下七名先発（二号線にて）
一四二	「オ」五次転進梯隊指揮官大久保中尉以下十名先発（二号兵站線）
一四三	「タワオ」残留部隊東火尉以下一〇五名温泉山附近に陣地構築 同地附近に移駐
一五三	福島准尉以下五名「オ」七次転進隊として出発せるも途中「カラバン」地区の警備

年月日	概要
昭三〇、八、二四	<p>ト在ず 作戰任務解除さる 尔後転進部隊（オニ号支店線による）は逐次「ボルネオ」西海岸「ボーホート」に至る 「ヤパール」移駐 「セツセルトル」トク移転 終戦処理業務 「タワオ」レ、残留部隊東火尉以下六一名「タワオ」レ出飛 東火尉以下六十一名「セツセルトル」レ上陸 尔後処理業務 復員の為「セツセルトル」レ出帆 大竹上陸 復員 解散（八十一名） 戦死四、戦病死一名、戦病死入十八名、行方不明三名 歴代部隊長名 大久保 政一</p>
自一九九 三、二四 至	
三、四、二二	
四、三五	
一〇、三二	
一〇、三五	
一〇、三三	
一〇、下旬	

ドレネオニ三外

8001

(368)

1999

部隊事情精通者

熊本市黒髪町大字下立田七四三

陸軍少尉 東 立天

福岡県嘉穂郡大隈町牛隈久恒東町九丁目

陸軍軍曹 佐 藤 春 雄

熊本県能託郡西里村大字貢六七五

陸軍伍長 境 進

オ七十一旅田司令部部隊略歴

整備責任者 陸軍准尉 福島 武治

年月日	概
昭一、一〇、一四	臨時編成下令
一三、二	北「ボルネオ」ラゼツセルトンに於て編成完結
二〇、三、二〇	オ三十七軍の戦斗序列に入る
五、六	北「ボルネオ」ラクチンシへ転進開始
二、三、一〇	転進完了
三、三、一〇	オ後内地帰還出發迄同地に在りて防衛に從事す
三、三、一〇	内地帰還のため主力 北「ボルネオ」ラクチンシ出發
三、三、一〇	大竹港上陸
	歴代部隊長名
×	旅団長 陸軍少将 山村 実衛
	参謀 陸軍中佐 藤田 太郎
	副官 陸軍少佐 船 一夫
	部隊事情精通者
×	岡山市伊福町字花町一六〇
	旅団長 陸軍少将 山村 実衛

概

要

オ七十一旅

○ 兵庫泉有馬郡中野村福島

副官

陸軍火佐

楢田

一夫

○ 新泻泉新泻市旭町二ノ五二一（松原道明方）

人事

陸軍准尉

福島

武治

○ 福岡泉三潞郡大濑村大角

部長

事務官(三)

岩橋

学

○ 千葉泉幕張町実栄町改造四ノ二

棟長

事務官(三)

野村

外平

独立歩兵中隊五三八大隊第一中隊部隊略歴(遊一〇〇一)

年月日	概 要
昭二九、一〇、三五	松本留守部隊にて南方派遣軍補充隊要員として仮編成完結
一、三〇	内司港出帆
一、三二	昭南に向う(延慶丸) 男女群島附近にて、敵機の攻撃を受け、コブラジル丸他一船沈没、船団衛不 明
一、三九	夫美大島を経て、キールンに着
一、三九	キールン港寄港
一、三〇	高雄港寄港
二、一四	サンジャック港寄港
一、九	昭南港着
糸後中隊管に駐留	
二、一〇	独立歩兵五三八大隊要員として、ボルネオにクタンンに向け出帆
二、一四	クタンンに着
大隊編成 同地附近の警備	
三、一三	クタンンと奥地コバウレ附近警備のため同地出発
三、一三	コバウレ着 同地附近の警備

ボルネオ二四外

五、三	更に奥地「ドヨール」附近に陣地構築のため前進 大隊本部の「バウレ」に残留
八一五	終戦 作戦任務解除
自 八一六 至 二二二	「バトキタン」にて終戦 帰還並に現地自活
自 二〇二 至 二二二	「バウレ」にて同右
自 二〇二 至 二二二	「スンガイヒリオレ」にて同右
自 二二二 至 二二二	「リンタン」にて同右
自 二二二 至 二二二	後員のため「クタン」に港出帆
四、一六	後員完結
	歴代部隊長名
	陸軍火佐 東 一 男
	加一中隊長
	陸軍大佐 新村 和夫
	部隊事情精通者
	○ 長野県東築摩郡高田村高出 三六八
	陸軍曹長 山田 邦武

六十一
二五
四

年 月 日	概	要
	当部隊は、大隊編成なるも実際は芥一中隊のみにて、一ヶ中隊編成なり 本部要員も芥一中隊より出であり。	

1008

(364)

2005

独立歩兵才五三九大隊部隊略歴 (敵斗一〇〇一)

年月日	概	要
昭五、一〇、九	独立混成五十七旅団に編入	
一〇、二五	屯営出発門司港に向う	
一一、二一	門司港出発 延慶丸に乗船す	
一一、二二	檣船 ハワイ丸、アキ川丸、奄美大島近海にて沈没せらる	
二〇、一、一〇	昭南に上陸す	
一、二二	独立混成才七十二旅団に専属し、昭南出帆待機	
	大隊編成	
三、一	独立歩兵才五三九大隊編成に着手	
三、一三	昭南港出帆、北「ボルネオ」クナラに向う	
三、一八	大隊編成完結す	
三、二二	ナツナ群島「パンダヤン」島より「スピケチール」島へ警備の爲、代井小尉の一小隊を派遣す	
三、二四	北「ボルネオ」ナツナ群島、大ナツナ島に上陸	
	同日より警備	
六、一〇	大嶋辰三大尉戦死し、北尾孝信中尉中隊長となる。	
六、二四	嘉美富士守上等兵戦死す。(スピケチール島に於て)	

年月日	概	要
昭二〇 九、二一	大ナツナ島ヲラナイレ出發	
九、二五	代井小隊と合流、ボルネオヲクチンレに向け出發	
九、二六	クチンレ上陸	
二〇、三、九	武装解除し、ブソに滞在、英印軍の使役部隊となる。	
三、二四	治靖丸に乘船帰国の途につく	
三、三〇	大竹港に上陸	
	編成解除、復員完結	
	歴代部隊長名	
	岐阜市益屋町一三	
	陸軍中佐	
	関谷 義雄	
	部隊事情精通者	
	長野県南佐久郡加山村大字宮山一七四ノ二	
	陸軍曹長	
	諸沢 弘男	
	横浜市鶴見区生麦町一八九二	
	軍医少尉	
	藤本 進	
	補 高田 秀 高田部隊ブソにて合同（二六三名位）	

ボルネオニ在外

3003

(366)

2007

本誌に於て

独立混成隊第七十一旅団砲兵隊部隊略歴（敵斗一〇〇五）

年月日

概

要

昭五、一〇、五	山砲兵隊十六聯隊に於て独立混成隊五十七旅団司令部要員充用部隊として復編
一〇、三五	成
二、三五	金沢出発
二〇、一、一〇	門司出帆
一、二二	昭南港上陸
三、二二	独立混成隊第七十一旅団要員として方三十七軍に転属
三、二二	昭南島警備
三、二二	昭南港出発
三、一八	北「ボルネオ」コクタン上陸
三、三五	独立混成隊第七十一旅団砲兵隊方一、方二中隊編成
三、三五	コクタン州の防衛並に警備
三、一四	終戦並に復員業務に従事
三、一五	終戦によりバウ郡内に集結
三、一八	コクタンに転進
三、二七	

独立混成隊七十一旅団通信隊部隊略歴

年月日	概要
昭一九、七、七	南方軍補充要員として陸軍中尉小長井憲太郎外九十名中部や十二部隊に派召
七、三〇	帝君丸に神戸港乗船
八、一〇	基隆港上陸
八、二二	高雄到着
一〇、一	伏見丸乗船 高雄出帆
一〇、九	フィリッピンフェルナンド上陸
一〇、二二	マニラ到着
一〇、二六	(日推定) マニラ港乗船 帝机丸
一〇、	北マドルネオレイブツセルトンレヘアピ)に上陸
一〇、	同地附近の警備
一〇、三	独混成隊七十一旅団通信隊編成
一〇、三	クナン附近に転進の途ゼツセルトンを出発
一〇、	クナンに到着
一〇、	終戦集結の途、バウに移動集結
一〇、	同日以後現地自活
一一、三、一〇	復員のためクナン出帆

	年 月 日
<p>昭三、三、二八</p> <p>後編完結</p> <p>歴代部隊長名 陸軍大尉 小沢井憲太郎</p> <p>部隊事情精通者</p> <p>岐阜県関町兵服町 人事掛 三品錠太郎</p>	<p>摘</p> <p>要</p>

0198

(370)

2011

南方軍野戦鉄道司令部隊署歴

司令官 陸軍少将 桑折勝四郎

年月日	概	要
三 一	<p>單令陸甲方九号に依り縮成下令 馬末「クアラルニ、プール」に於て、旧方三野戦鉄道司令部及若干の停車場 司令部を現地復帰し右人員を以て縮成に着手す 縮成完結、南方軍の戦斗序列に縮成を命ぜらるる南方軍司令部 の直轄下となる 仏印、爪、馬來、緬甸、「シヤワ」、「スマトラ」、「ボルネオ」等南方各地の鉄道 諸部隊を隷下に入れ司令部を馬末「クアラルニ、プール」に置き南方鉄道の占 領、固拓、建設、運送、確保等、鉄道作戦に行す 縮成完結時隷下並、指揮下に入りし諸部隊左記の如し 隷下部隊 <ul style="list-style-type: none"> カ一 鉄道部 カ一〇 停車場司令部 カ一四 鉄道輸送司令部 カ一二 停車場司令部 カ一五 鉄道部 カ一三 停車場司令部 カ一六 九聯隊 カ一四 停車場司令部 </p>	

年月日	概
九 三 五	<p>仏印に在りし鉄道亦十連隊（材料廠欠）主力を泰緬連接鉄道運送 強化の爲 国鉄道沿線に転進配置す</p>
一 番	<p>南支 仏印 連接 鉄道建設の爲 調査隊を編成し仏印国境より南寧に派遣す</p>
三 一	<p>軍令に依り新たに南方軍総司令部 直轄下たる南方軍 野戦鉄道廠の編成下令に当り之の編成担任官を命ぜられ同訂隊編成完結と同時に当司令部の指揮下に入らしめる</p>
三 番	<p>戦況の推移に応じ司令部を昭南より盤谷に移動す</p>
二 一	<p>南方軍野戦鉄道廠を司令部と別後し昭南より盤谷に移動せしむ 緬甸に在りし鉄道亦七連隊主力（カニ大隊欠）を仏印鉄道運送強化の爲西貢に転進せしむ</p>
二 六	<p>カニ鉄道材料廠を緬甸より泰國に移動せしむ</p>
三 番	<p>✓ 仏印從軍鉄道 軍手輸送力の昂揚並防空対策強化の爲</p>
四 番	<p>河以に新司令部所を設け石叻向中仏印に於ける期号作戦に参加す</p>
三 番	<p>比島に派遣中の鉄道亦八連隊部下を撤す</p>
四 番	<p>仏印期号作戦終了後鉄道亦七連隊を泰國に転進せしむ</p>

年月日	概	要
五 寄	<p>南方大陸の鉄道並 船舶の一貫輸送遂次困難なる状況に鑑み南方軍に於て鉄道、船舶、部隊を以て交通路を確保し各地に毎に水陸軍用輸送力統合を命ぜらる依て当司令部は茶交通隊司令部となり盤谷に於てオ三船舶輸送司令部茶支隊を其の指揮下に入れ茶団に於ける海陸輸送の統合発揮に任ず</p>	
六 寄	<p>フジヤワレに在リレオ四鉄道輸送司令部となる盤谷に於てオ三船舶輸送司令部茶支隊を其の指揮下に入れ 茶団に於ける海陸輸送の統合発揮に任ず</p>	
六 寄	<p>フジヤワレに在リレオ四鉄道輸送司令部及「ホルネオ」に在リレ南方軍野戦鉄道司令部の一部を各々隷下を脱し所在軍司令官の隷下に入らしめる</p>	
七 寄	<p>南方軍命令に依り南方軍各地域の後方関係部隊は所在軍司令官の指揮下に入らしめられたるを以て当司令部は盤谷に於てオ十八方面軍司令官の指揮下に入る</p>	
八 五	<p>終戦</p>	
二〇二	<p>連合軍の命に依り盤谷に依て鉄道関係の終戦業務を処理す</p>	
二〇三	<p>尚終戦と同時に緬甸 馬來「スマトラ」仏印等の各隷下部隊は各々各地に軍司令官の命令に依り隷下を脱し所在部隊に転属す</p>	
二〇四	<p>盤谷に於て上船</p>	
二〇五	<p>「ミンガポール」上陸</p>	

ノ外 鉄道

2015

(374)

年月日	
概	<p>フミンガポールに於て約一週間英軍命令に依り房務に従事す</p> <p>一三 フミンガポールに於て上船</p> <p>二二 佐世係上陸</p> <p>同日復員</p>

8108

(375)

2016

年月日	概	要
一 三 一 四	<p>附南方軍野戦鉄道司令部隷属尚残存は豫所属のまゝなり 南方軍野戦鉄道隊管理隊の指揮下に入り鉄道軍營に従事し終戦后引継ぎ任務 執行す 転進向に於て一時十持設鉄道軍團隊の指揮下において鉄道運營に 従事す 此の間に於て鉄道手一名 雇員四名 戦病死尚終戦に際し茶地区及馬末地区 軍病院に入院中の者二十三名 歴代部隊長名 鉄道官 古賀清藏 部隊事情精通者</p>	<p>所 神奈川景足根上部岡本村和田河原一。六二 鉄道官 荒井義雄 名古屋市西也本町三ノ一九 鉄道官補 山田雄次郎 長野県長野市東科町四一九 石井方 同 竹田辰次郎 神奈川景足根下郡真鶴町七四二ノ一 同 三木盛造</p>

南方軍野戦鉄道司令部略歴

南方軍野戦鉄道隊管理隊長

鉄道監

川田錦一郎

年月日	概	要
四九	カ五特設鉄道司令部増強要員として緬甸に派遣を命ぜらる(長以下二四二名)	
五	輸送向の諸勤務緬甸鉄道保守軍管の強化 次頭作幹準備期間に於ける軍需輸送力の増強方面軍の実施せる「ウ」号 断絶作幹間に於ける軍需輸送	
三四	兵力損耗 戦死判任官(信將監)ニ 雇員 六 將雇一	戦死 一三
三	印度支那に戦進を命ぜらる	計 五
四	輸送向に於ける諸勤務及南方軍の作幹に即應する南部印度支那鉄道保守運送の強化並軍需輸送	
八	兵力損耗 戦死 高等官ニ 判任官一四 雇員八	戦死 一四
	戦死 一九 雇員 一〇 備人	計 五四

年月日	概 要
八 三	部隊主力の転進と同時に中畑鉄道官長とする 一部兵力を緬甸に残留し引続き鉄道保守軍管に任せしたるが
三 三 五	印度支那に於て本隊に復帰す 中畑隊の緬甸より転進に当り状況に依り同一行動を執り得ず尚緬甸方面に在りと推定せらる者一ニ七名 緬甸国境面に於て嘔時師団也ら此たる歩兵五大隊へ應召者一七八名あり同引続召集中の者四六名 行方不明の者ニ一一名 連合軍要求に基き終戦後引続や南印支那鉄道の保守強化運管等に從事した
三 三	期し川上鉄道官長とする一ニ五名の隊員を以て引続き仏側の鉄道作業を援助せしめ部隊主力は遂次指揮下に入れる別記部隊を併せ指揮し最後集結地南部仏印「バリア」地区に移駐す
三 五 一	聖准出発 大什上陸 復員完結す
五 四	歴代部隊長
	鉄道官 二等 川 田 婦 一 郎
	鉄道官 四等 川 上 寿 一 (中畑隊分割時の部隊長)

南方軍野戦鉄道司令部 部隊名歴
 南方軍野戦鉄道司令部棟隊
 隊長 陸軍軍医長官

林士郎

年月日	概	要
一〇	在緬甸五特設鉄道隊（カ五特設鉄道司令部カ十一特設鉄道運輸隊カ八特設 鉄道工務隊カ五特設鉄道工作队）より内地帰還予定要員一時に転用に伴 基きカ七方面軍司令部に転属	
三	各隊毎に集結地路南に向ひ転進開始	
一	転進途中鉄道官 林 士郎以下百名は南方軍野戦鉄道司令部に再転属	
二	南方軍野戦鉄道司令部林部隊の編成を命ぜられし隊名を林部隊と呼称	
一	泰国臨谷南方軍野戦鉄道司令部に於て別紙の通隊の編成完結す	
三	印度支那「カンボジア」線の鉄道運営監督並防空施設の任務を命ぜられる	
三	印度支那全辺に転進	
三	鉄道カ七聯隊長の指揮に入り「カンボジア」線鉄道の運営監督並防空施設の 任に従事す	
八	終戦後戦時行爲停止し運営並監督の任に従事す	
九	可政官伊藤加夫金近カ百四十九兵站病院退院し当隊に転属	

年月日	概要
一〇三二	軍属、鉄道官補、月野龍一、陣歿（逃亡行方不明）
一一二六	陸軍属、城島千年、人金辺、方百四十九、兵站病院、退院、当隊に転属
一一三〇	連署、監督命により終了
一一三九	依命、フカンボナア、首都金辺、発
一一四三	西原到着、南方、軍野戦、鉄道管理隊長の指揮に入る、人員別紙ニの通
一一四六	並、負、発
一一四七	衆、結、地、ハ、リ、ヤ、ム、に、到、着
一一三一	軍属、備上村田、佐吉、陣歿（逃亡行方不明）
一一三一	歴代、部隊、隊長、名
一一三一	部隊、事情、精、通、者
一一三一	住所、滋賀、県、小、滋、賀、郡、伊、香、村、龍、花、三、三、五
一一三一	住所、千葉、県、千葉、市、登、戸、五、ノ、三、五
一一三一	住所、千葉、県、千葉、市、登、戸、五、ノ、三、五
一一三一	住所、千葉、県、千葉、市、登、戸、五、ノ、三、五
一一三一	住所、千葉、県、千葉、市、登、戸、五、ノ、三、五
一一三一	住所、千葉、県、千葉、市、登、戸、五、ノ、三、五
一一三一	住所、千葉、県、千葉、市、登、戸、五、ノ、三、五
一一三一	住所、千葉、県、千葉、市、登、戸、五、ノ、三、五
一一三一	住所、千葉、県、千葉、市、登、戸、五、ノ、三、五

3308

(382)

2023

南方軍野戦鉄道隊管理部隊署歴 (高橋隊)

年 月 日	概	要
三 三 三	在緬方五特設鉄道官以下五十名仏領印度支那に派遣を命ぜらる内訳人員左の通り	
	鉄道官 方五特設工作队 一名 方五特設司令部 一名 小計二名	
	官 補 方五特設工作队 七名 方五特設司令部 一名 小計十名	
	方五特設橋梁隊 二名 小計十名	
	鉄道手 方五特設工作队 十五名 方五特設橋梁隊 一名 小計十六名	
	方五特設工作队 十四名 方五特設司令部 二名 小計十六名	
	方五特設橋梁隊 四名 方五特設工作队 一名 (合計五十七名)	
四 一 三	泰國盤谷着令日南方軍野戦鉄道隊に配属せらる	
一 六	吉永鉄道官以下二十五名鉄道方七連隊指揮下に入り爾後泰國に於て鉄道の運	
	營に任し主として輸送材料の補修整備に従事す	
三 〇	泰國より仏領印度支那西貢に転進	
	全日鉄道方七連隊桐野大隊の指揮下に入り爾南節仏領印度支那に於て鉄道の	
	運營に任し主として輸送材料の補修整備に従事す	
三 四	甲賀鉄道官補以下八名は鉄道方十連隊配属し爾後北部印度支那ウイン工場に	

年月日	概要
七五	於て輸転材料の補修整備に従事せるも終戦後消息不明
八七	南方軍野戦鉄道隊管理隊の指揮下に入り前任務を続行す 吉永鉄道官以下二十五名茶屋より本隊に復帰す
三二	終戦と共に西貢郊外デイアンに復結し鉄道工場の管理警備に任す 鉄道工場の管理並に警備に關し鉄道カ七連隊カニ中隊渡次中尉に全任務を引継す
二一	西貢カ三兵站集結
二六	西貢郊外バリヤ集結
	歴代部隊長 鉄道官 高橋正男
	部隊事情精通者
	本籍地 島根県大東郡大東町一六二六 鉄道官 吉永鉄三郎
	埼玉大宮市土手宿一一九番地 鉄道官補 岡野博邦
	愛知県渥美郡由原町大字田原堂町四九 小久保 悟

年月日	概	要	摘要
四 二 四	フランケーン支隊を撤去し盤谷支隊及本隊を強化す		陸軍勤務ヲハテ五中隊 野戦鉄道司令郎 等より所要人員 を勤務せしめ或は 指揮に入らしむ
九 三 一	「フノニホイ」及「フユンナヨーク」西瑞穂村集結地に於て運兵 軍務務（「フプラケマイ」オラング兵「フサラブリー」飛行場糧秣 輸送者掃蕩警備等）及設置並用期討策自治業務に従事す		深小郎隊長は、 才月十日盤谷に逃 ける諸部隊倉庫 を連合軍に焼く 「フノニホイ」集結地へ 才月十四日水堀 中佐以下約半數 「フユンナヨーク」西 瑞穂村に移駐す
五 二	「バンボン」市八角倉庫（元兵器廠）に於て連合軍軍務（兵器 兵器資料集積保管 整理 輸送反集積保管警備）に従事す		才一月十日深小郎隊 長以下主力は「フ ノニホイ」を「フマシヤ 」内瑞穂村に移駐す 内北瑞穂（「フマシヤ」 の駅敷月日）
六 三	花崎中尉以下二五名「ターモアン」自動車修理工場 深山大佐以下二〇名盤谷防務隊として盤谷に転進 植草主計大尉以下四名八角倉庫引継のため残留		才六月七日松岡中尉 以下三五名内九名
六 二 八			

年 月 日		一 概						
平山中尉以下三〇名恭緬派出張隊として矢部中佐の指揮に入る		元 三 一 雁代部隊長名 以降 陸軍大任 深山忠男 (命課昭一九九二二) 部隊事情精通者						
内 上 陸 地 地	内 上 陸 地 地	本 籍 地	役 種	官 等 級	振 名 氏	留 守 地	當 者	
三二七八 浦賀	三二七八 浦賀	東京都葛川区大井北 川町二九三 愛知県海部郡津島 本町五丁	現	大任	深山忠男	愛知県海部郡 津島町本町寺	深山中尉	
			現	中任	赤堀道命	小形景四村出郡 左天町三八六	赤堀千代	
							六月二十八日赤堀 中尉以下五名 (赤堀中尉以下分 毛アコを含む)	

5212

			年 月 日
			概
愛知県名古屋市中区 区代所東屋敷三ノ一	東京郡本郷 一六	愛知県豊橋市並町字 藤並八二	小形景西村小形左次 三八六
現	後	後	
源村	大村	大村	
版附	版附	尉官	
龜取清治	土方文彦	八木和美	
令	令	本籍以同也	安
父	妻	妻	
龜取泰三郎	土方さえ子	八木トセ	

(989)

2030

オ百ニ停車場司令部 部改署歴

オ二〇ニ停車場司令官 仁 禮 義 彦

年月日	概	要
昭和六〇	滿州より仏印に転進	
一	恭園に転進	
一	暹羅に転進	
二	暹羅鉄道の輸送業務處理	
二	新嘉坡に転進	
五	令所に於て暹羅鉄道の輸送業務處理	
五	緬甸に転進	
五	▽の同 緬甸鉄道の輸送業務處理	
一三〇	兩頁駅に於て勤務中敵機の空爆の受け下士官一名 戦傷し方一。又兵站病院に入院	
二〇〇	戦死す	
二〇〇	恭園に転進	
二〇〇	恭園鉄道の輸送業務處理	

年 月 日	概	要
	歴代部隊長 / 陸軍中佐 戸 技 丑 徳 又 陸軍大佐 仁 禮 義 彦 部隊事情精通者 宮城県仙台市北村本町一三四番地 陸軍大尉 平 田 千 秋 福島県伊達郡川俣町字鉄炮町五十三番地 陸軍中尉 大 内 昌次郎	

8808

(391)

2032

年 月 日	概 要
昭和七	大阪に於て緬 北支山海關車場司令部
昭和八	滿洲国東安停車場司令部 滿洲国圓町停車場司令部
昭和四	緬甸に向い戦進を開始す 緬甸国コモルメンレ停車場司令部
昭和六	フニヤムレ国コプランカレイレ停車場司令部
昭和五	陸軍伍長 小松佐之吉 戦死す
昭和四	フニヤムレ国コノンプロドックレ停車場司令部
昭和五	フニヤムレ国コラツプリーレ停車場司令部
	終戦
	歴代部長 陸軍大佐 日根 善三助
	部改事情精通者
	任所 大阪府堺市上石津町二四六八 陸軍大尉 川口繁一

百二十停車場司令官

部改署歴

陸軍大佐

日根 善三助

方百二十一停車場司令部署歴

方百二十一停車場司令官 後野 耕 臣

年月日	概 要
四 七	中郎方ニナニ部隊に於て備成完結
二 四	直ちに滿洲国兵江省一面破に到り停車場司令部業務に服す 主計下士官一 公病死 緬甸に転進
七 二	緬甸国「モパリン」に着停車場業務に服す
五 一	緬甸国「アアフィン」に於て停可業務に従事す
五 六	緬甸国「モールメン」に於て南方軍野戦鉄道司令部出張所兼停可業務に服す 「モールメン」に於て方回特設鉄道司令部「モールメン」出張所兼停可業務に服す
二 一	依然「モールメン」に於て泰緬鉄道隊司令官の指揮下にありて停可業務に服す
一 四	泰国「ナニンバトム」(後に「ナコンチャイシリ」)に於て停可業務並船車中継輸送業務に服す 泰国盤谷駅に於て停可業務に服す

1495

(374)

2035

ラウ列 録

年月日	概	要
八	終戦	
九	泰國「ノンポイ」集結	
二	泰國「ナコンナヨーク」に移動	
三	泰國「バンボン」に移動	
五	復員完結	
六	歴代部隊長石ノ大佐 磯野 勘 臣	
	部隊事情精通者	
	住所 静岡县同智郡久野西村藪集八一七	陸軍主計中尉
	住所 大阪市東淀川区国次町五八六	陸軍准尉
	住所 大阪市生野区中川町四丁目一〇〇	陸軍曹長
		岡山 長 米 蔵
		平野 資 一
		山本 新太郎

才百四十三停車場司令部 部隊略歴

年月日	概	要
癸 七 五	山口に於て締成完結	
六 四 一	朝鮮南陽羅津に於て停車場司令部司令部業務実施	
六 一 五	下士官 一 戦病死	
三 三 四	朝鮮より転進爾後緬甸「タンビサヤ」 「モールメン」 「マングレー」附近に於て 停車場司令部業務実施	
三 三 四	米国に転進途中爾附近に於て下士官一戦死	
三 三 四	緬甸より泰固転進爾後「バクナンポー」附近に於て停車場司令部業務実施終 戦に至る	
五 九	泰固に於て下士官一 兵二 戦病死	
九 五	歴代部隊長名ノ 陸軍中佐 山 根 孝 一	
	部隊事情精通者	
	住 所 東京都葛川区大井金子町五九〇番地 三保 幹太郎方	
	陸軍大尉 土 屋 退 蔵	

鉄道

	年 月 日
<p style="text-align: right;">山口県玖珂郡小瀬村二五一九番地 陸軍中尉 森田 孟</p>	<p style="text-align: center;">概</p> <p style="text-align: center;">監</p>

(327)

2038